ほのか診察室

HONOKA Consultation room

シリーズ 第122話

古くて新しい感染症「結核」にご注意を!!

市民病院
診療支援部
臨床検査課
監修

結核って今も発症しているの?

「結核」は過去の病気だと思っていませんか?実はそうではありません。日本国内では、毎年約1万8千人が新たに結核を発症しています。

結核は「結核菌」という細菌によって引き起こされる病気です。結核菌は、体内に入り込み増殖した場所によって、肺結核、腸結核、腎結核などを引き起こします。日本ではこのうち「肺結核」が結核患者の約8割を占めています。

結核菌が肺の中で増殖し発症すると、せき、痰(たん)、発熱など風邪のような症状が現れます。また、体重減少、倦怠感、寝汗をかくなどの症状が現れ、病気が進行すると血の混じった痰が出始め、さらに重症になると血を吐いたり、呼吸困難に陥ったりします。

明治時代以降、近代化による都市部への人口集中に伴い、若い人が結核に多く罹患(りかん)し、「国民病」と恐れられていました。戦後、国を挙げての予防や治療の取り組みによって、結核による死亡者・死亡率は激減しました。

しかし近年でも、約1900人が結核で亡くなっています(厚生労働省:平成28年結核登録者情報調査年報)。

日本では、結核患者の減少とともに結核への関心が薄れ、予防に対する意識も薄くなりました。そのため、結核を発症してもそれと気付かずに受診が遅れるケースが少なくありません。最近の日本の結核患者の傾向をみると、70歳以上の高齢者が6割を占めています。これは、かつて結核がまん延したときに感染し若い頃は発症が抑えられていたのが高齢になって免疫力が落ちたことなどにより発症する人が増えたと考えられています。また、人口に対して結核にかかる割合(罹患率)は、東京などの大都市圏で高くなっています。

結核ってどうやってうつるの?

結核を発症した患者は、ある程度症状が進むと、体内で増殖した結核菌を体の外に排出(排菌)するようになります。そうした結核患者のせきやくしゃみに、結核菌が混ざって空気中に飛び散ります。それを周囲の人が直接吸い込むことによって、人から人へ感染します。

結核の検査方法は?

結核の検査には、胸部X線撮影およびCTによる画像検査、痰などの検体を採取して行う細菌検査、遺伝子検査などがあります。これらの検査により「結核の診断」と「感染性の診断」を行います。細菌検査ではさらに細かく、痰などの検体をガラス板に塗り、顕微鏡で菌の有無(感染性)を調べる塗沫(まつ)検査、結核菌を鑑別し、どの薬が効くのかを調べる薬剤感受性検査を行うための培養検査などをする場合があります。

近年は、少量の菌でも短時間で結果が出る遺伝子検査が普及し、診断の遅れによる感染の拡大を防ぐことに大きく貢献しています。

こんなときは医療機関へ!

結核の初期症状は風邪とよく似ています。せきや痰の症状が現れたらマスクの着用を心がけ、**2週間以上症状が続いたら、早めに医療機関を受診**しましょう。

結核予防キャラクター「シールぼうや」
(公共財団法人　結核予防会より)

問 市民病院(代表) TEL 22-2171